

観音滝トピックス

観音滝温泉「滝の宿」

有料入館者50万人達成

観音滝温泉「滝の宿」では、9月1日有料入館者が50万人を達成しました。

「滝の宿」は、平成9年9月17日にオープンし、宿泊、入浴、宴会、カラオケ、休憩などに利用されています。

有料入館者50万人目となったのは、大阪府枚方市の日向輝久穂さん。日向さんは大阪より祁答院町の企業に毎月出張で来られた際、そのたびごとに「滝の宿」を利用していきるそう、当日「パーク観音滝」より記念品が贈られました。

日向さんは「観音滝温泉は施設もよく緑豊かな環境がとても気に入っています。また今回は、50万人目ということでたいへんビックリしました。」と感想を話していました。



▲入館者50万人目となった日向さん（写真右）厚地支配人と一緒に

「観音滝温泉からのお知らせ」

今年、7月から8月にかけて、宮崎県および本県薩摩郡内の循環式を採用している温泉施設から、レジオネラ菌が高い濃度で検出されました。

観音滝温泉「滝の宿」では、レジオネラ菌に対する検査を毎年実施しています。

昨年度は8月30日、また本年度は8月21日、9月18日の2回実施し、いずれも検出されていません。（12月には、再度レジオネラ菌に対する検査を実施する予定にしています。）

これらの菌を殺菌する残留塩素は、現在、毎日朝夕濃度測定をおこなった、レジオネラ菌が死滅する0・3ppm以上を常に維持しています。

水風呂等を使用する地下水については毎月検査しており、異常な数値は確認されていません。

清掃につきましては、毎日入浴時間終了後、浴槽、配管の洗浄をおこない、浴槽水はすべて入れ替えております。

今後も引き続き定期検査を実施し、お客様に安全に入浴していただけるよう万全を期してまいりますので、安心してご利用くださいますようお願いいたします。

保健師メモ

目が疲れていませんか①

目は絶えずいろいろな物に焦点を合わせ働き続けています。そのため目が疲れるというのはよくあることですが、しばらく目を休めると回復する・一晩眠れば回復するといふものは「疲れ目」、また疲れがとれずなかなか回復しないものは「眼精疲労」といいます。

「眼精疲労の原因」

目に合わない眼鏡やコンタクトレンズをしている。
部屋の湿度が低い、照明が暗い。

テレビの見過ぎ、パソコンでの作業やテレビゲームなどによる目の酷使。
病気や年齢に伴う目の焦点調節の不調。

過度なストレス、直射日光によるもの、夜更かし。
上記のようにいろいろな原因が考えられます。

「涙の役割」

目は常に涙に覆われています。

すが、涙は以下のように重要な役割を担っています。
涙を常に出し続けて角膜などの乾燥を防ぐ。

血管のない角膜に酸素と栄養を補給する。
細菌等を殺菌する。

角膜の表面の凹凸を滑らかにし光の乱反射を防ぐ。

なんらかの原因で涙の分泌量が不足するとこれらの働きが十分におこなわれなくなります。異常を感じたら眼科を受診しましょう。

「VDT作業上の注意」

VDT作業はパソコンなどのディスプレイ（画面）を使って作業することで、多くの職場でおこなわれています。
VDT作業時は、目を酷使しないよう1時間の内10分間は休憩をとり、その間はパソコンから目を離し、目を休ませましょう。

また作業している机や椅子が自分に合っていることも、目を疲れさせない重要なポイントとなります。

「詳細については」

役場町民課保健師まで